

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り

平成 29 年 8 月 23 日 (NO.96)



浦幌町教育委員会
浦幌町教育研究所

苫小牧市議会の行政視察

■8月23日(水)、苫小牧市議会の皆さんが来町され、浦幌町が進める「小中一貫CSの推進」について視察されました。主な協議内容は次のとおりです。

① 小中一貫教育の成果について

教職員の合同研修や乗り入れ授業、ジョイント教室などの実施により、小中学校間の連携・協働が進み、中一ギャップの解消や教職員の意識改革に成果が見られた。

② 地域の人たちの変化について

「熟議」を通して学校・家庭・地域間の垣根が低くなり、協働体制が生まれてきた。情報を共有するようになり、学校に対する理解が深まってきた。地域コミュニティの活性化が見られた。

③ 学校規模による取組の違いについて

どのような学校規模でも小中一貫教育やCSは推進できる。中学校を中心に1～2校の小学校で学園を構成して取り組むと効果的である。小中併置型がより望ましいが、小

中学校分離型でも十分機能する。

④ 小中一貫CS推進の原動力について

CSは学校と地域の連携・協働体制を組織的・継続的に確立し、学校運営の改善・充実や地域コミュニティの活性化に大きな力を発揮する。こうした意義や明確なビジョンを自らの言葉で語り、取組の必要性を説くために、教育長や校長のリーダーシップが大切である。

⑤ 推進上の留意点について

教職員や家庭・地域の皆さんのコンセンサスを得ることが大切。先進地視察や研修会、説明会等の様々な機会を通して、小中一貫教育やCS導入の意義や必要性の理解を促す地道な取組が必要であり、「熟議」「協働」「マネジメント」の機能を生かした当事者意識の高揚が必要となる。

⑥ 協働・連携の課題について

- 負担感・不要感・不安感の解消
- 連携・協働が目指すものの明確化
- 学校運営協議会の機能化
- 子供を中心に据えた目標やビジョンの共有
- 地域住民の当事者意識の高揚
- コーディネーターの役割
- 企業や団体、首長部局等との連携
- 幼保と小中一貫教育とのかかわり
- 推進者の資質向上、後継者の育成
- PDCAサイクルによる学校評価の充実

